

人事

人権擁護委員(※)の渡辺 敏明 氏及び渡辺 邦男 氏が3月31日で任期満了となるため、次の方を法務大臣に推薦することについて同意しました。



渡辺 邦男 氏
鳴沢6組
(再任)



渡辺 正次 氏
大田和1組

任期は3年間となります。

※人権擁護委員

人権擁護委員法に基づいて、人権相談を受けたり人権の考えを広める活動を行う民間ボランティア。

意見書を国へ提出

「地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書」を提出

- 議案提出者 小林 利雄
- 意見書提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣

〈意見書要旨〉

地方分権時代を迎えた今日、住民の代表機関である地方議会の果たすべき役割と責任が格段に重くなっており、地方議会議員の活動も幅広い分野に及ぶとともに、より積極的な活動が求められている。

しかしながら、地方では議会議員のなり手不足が大きな問題となっている。

こうしたなか、地方議会議員の年金制度を時代に相応しいものにすることが、議員を志す新たな人材確保につながっていくと考える。

よって、国民の幅広い政治参加や地方議会における人材確保の観点から、地方議会議員の厚生年金制度加入のための法整備を早急に実現するよう強く要望する。

村内の工事現場 などを視察

12月16日に、村内で行われた道路工事等の現場状況視察を行いました。



村道 I-3号線道路改良・配水管 布設替工事

JAなるさわ大田和支所南側の交差点から長塚バス停付近までの約460mの舗装が打ち換えられ、歩行者の安全確保のためにグリーンベルトが設置されました。

また、老朽化した水道管(鋼管)を、耐震性のポリエチレン管へ布設替えも行われました。

村道726号線道路改良・配水管 布設替工事

じらごんの森の館付近からキャノンアネルバ交差点までの約600mの舗装が打ち換えられ、一部拡幅されました。また、歩行者の安全確保のために外側線の外がわが広めに確保されました。

また、老朽化した水道管(鋼管)を、耐震性のポリエチレン管へ布設替えも行われました。



村道 I-2号線大坂道 外側線・グリーンベルト設置工事

叶建設付近から三本松配水場付近までの区間約5700mの外側線が塗り直され、歩行者安全対策として、グリーンベルトが叶建設付近から久野屋付近まで約480m延長されました。

村道189号線拡幅改良工事

三浦富也宅付近のクランクが連続する区間約110mの拡幅改良工事が行われ、雨水処理のため側溝が敷設されました。



予算決算常任委員会

委員長 小林 昭一

予算決算常任委員会に付託された6件の補正予算案について、12月15日に委員会を開催して審査した結果、いずれも賛成全員にて原案の

とおり可決すべきものと決定しました。

ここでは、補正予算案に対するおもな議論をご紹介します。

一般会計補正予算(第5号)

滞納整理事務

問(渡邊政司) 高額滞納者の滞納整理のため、51万5千円の補正予算を計上して、県外にある滞納者所有不動産等の調査・鑑定等を実施することのだが、(不動産等処分により)どのくらいの回収額を見込んでいるのか。

答(税務課長) 鑑定評価前のため明確な価格は出ないが、複数の不動産を所有しており、最低でも600万円から800万円程度の回収額を見込んでいる。

介護予防支援事業特別会計補正予算(第1号)

介護予防支援事業

問(三浦利雄) 平成29年4月1日より開始する介護予防・日常生活支援総合事業と、それに伴い地域包括支援センター(※1)で実施する事業について、詳しく説明願いたい。

答(福祉保健課長) 平成18年の介護保険法改正に伴い、要支援者(※2)への介護予防サービス計画の作成を外部委託していたが、今回の法改正により、要支援者予備軍である「事業対象者等」に関してもサービス計画やケアマネジメント(※3)を作成することとなった。

外部委託だけでは対応しきれないことから、地域包括支援センターにおいてサービス計画等を作成するため、今回補正予算に計上して支援システムを導入する予定である。

(※1) 地域包括支援センター

地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。本村では保健センターがこれにあたる。

(※2) 要支援者

部分的に介助が必要ではあるが、比較的自立した生活が営める状態であり、予防的な対策が必要な者。

(※3) ケアマネジメント

介護等の福祉分野で、福祉や医療などのサービスを調整し、それを必要とする人へ適切で効果的なケアを提供すること。

問(佐藤博水) 「介護予防支援システム機器一式」について、詳細な内容を説明願いたい。

答(福祉保健課長) 地域包括支援センターの業務支援システムを構築するパッケージソフトが70万2千円、データ等を管理するサーバ機器類が138万2千4百円、合計で208万4千400円となっている。



総務教育厚生常任委員会

委員長 小林利雄

現場の声を吸い上げ

地域を盛り上げる 若い力に期待

12月12日に、「地域おこし活動をする若者との意見交換について」を議題として委員会を開催しました。

会議に先立って、村内で地域おこし活動を行っている有志団体『なるさワッショイ!!』の代表 渡辺尚樹^{たかき}さんと、志村清幸さんをお招きして、活動の概要や今後の展望、村や議会への要望事項などをお伺いしました。

『なるさワッショイ!!』は、渡辺さんほか村の同級生4人で、「なにも楽しいことがないから自分たちでやろう!」と立ち上げた団体で、去年は夏祭りやハロウィンパーティー、クリスマス会など、主に子供たちが楽しめる様々なイベントを実施されました。

彼らからは次のようなご意見をいただきました。

- ◆「自分たちが楽しめること」を基本に、形式にはあまりとらわれず、自由なスタンスで無理なく継続していけることを重視して活動している。この活動が将来的に地域の活性化につながればうれしい。
- ◆資金面で苦勞しているが、仮に村などから補助金等の支援を受けても、それに応えるだけの対応力はまだない。個人的に協力や支援して下さる方が増えればとても励みになる。
- ◆イベントを通じて三世代交流の機会が増えれば、楽しく元気な村になると思う。議員の皆さんにも「おじいちゃん世代」としてお孫さんと一緒にイベントに参加するなど、一個人として協力していただけるとありがたい。
- ◆我々と同じような活動をする団体が他の世代からも出てきてほしい。「その気になればやれるんだ」ということを示すためにも、頑張って活動を継続していきたい。



熱く語る
志村さん(左)と
代表の渡辺さん



熱く語るお二人からは、若い世代のパワーと希望が感じられ、我々にとってもよい刺激となりました。

議会としても、彼らの要望に沿うかたちで、イベントへの参加や、活動の周知、参加者や協力者の紹介など、一村民として彼らの活動を支援していきたいと考えております。



夏祭りでは元Whiteberryの前田有嬉さんと競演



子供たちもかわいく仮装したハロウィンパーティー



クリスマス会はマルシェの出店で賑わいました